

座長：建部 将広（名古屋大学 四肢外傷学寄附講座）

砂川 融（広島大学 大学院医系科学研究科上肢機能解析制御科学）

PD4-1 母指CM関節における「靭帯」の解剖学的再考—対立筋の意義と脆弱性

Anatomical reconsideration of ligaments in the trapeziometacarpal joint

二村 昭元¹, 野呂瀬 美生², 藤田 浩二¹¹東京医科歯科大学大学院 運動器機能形態学講座, ²東京医科歯科大学大学院 整形外科学分野

母指CM関節の安定化に寄与する靭帯構造を周囲筋腱と関節包の観点から解剖学的再考した。橈背側靭帯とは第一背側骨間筋腱膜が近位に延長し、関節包と合した構造と解釈された。一方、そのすぐ橈側における関節包は橈側に比して薄く、母指対立筋が被覆するのみであった。ピンチ動作時における対立筋動員の有無が、関節アライメントに影響していることから、静的に脆弱な橈側部分を、対立筋が動的に支持していると推測された。

PD4-2 母指CM関節症に対する第1中手骨外転対立位骨切り術

Abduction-Opposition Wedge Osteotomy of the First Metacarpal for Trapeziometacarpal Osteoarthritis

堂後 隆彦

西能病院 整形外科

2010.11~2018.10に第1中手骨外転対立位骨切り術(AOO)を行った母指CM関節症80手を検討した。第1中手骨基部で30°の楔状骨切りを行い、ロッキングプレートで固定した。合併症はなく、疼痛VAS, QuickDASH, X線評価(第1中手骨大菱形骨間距離, 脱臼率)はいずれも有意に改善した。母指CM関節は年齢を重ねると『荷重関節』としての機能も必要となる関節であり、関節を温存でき、サルベージ手術が残されるAOOは有利な術式と考えた。

PD4-3 鏡視下大菱形骨部分切除併用suture button suspensionplasty

Arthroscopy-assisted suture button suspensionplasty for thumb carpometacarpal arthritis

清田 康弘^{1,2}, 中山 政憲^{1,2}¹国際医療福祉大学医学部整形外科学, ²国際医療福祉大学成田病院 整形外科

母指CM関節症に対する鏡視下大菱形骨部分切除とsuture button suspensionplastyを併用した関節形成術8例8指の治療経験を報告する。疼痛VAS値は術後有意に改善した。大菱形骨腔は術直後に有意に拡大し、術後1か月で縮小していた。一方、脱臼率は術直後に改善し、最終調査時には維持されていた。本術式によるCM関節症の疼痛の改善には、大菱形骨腔の拡大よりも関節の適合性と安定性が寄与している可能性が示唆された。

PD4-4 母指CM関節症に対するligament reconstruction and tendon interposition変法とSuture-button Suspensionplastyの比較検討

Comparison with Modified Ligament Reconstruction Tendon Interposition and Suture-button Suspensionplasty for Basal Thumb Arthritis

森田 晃造

国際親善総合病院 整形外科・手外科センター

母指CM関節症に対して橈側手根屈筋半腱とinterference screwを用いたligament reconstruction and tendon interposition変法とsuture-button suspensionplastyを施行した症例の治療成績について比較検討した。前者は矯正位の保持(第1中手骨のmigration防止)に優れており、後者は手術時間が前者に比し短い結果であった。疼痛およびDASHによる臨床評価の改善度は同様に良好であった。

PD4-5 母指CM関節症に対する観血的および鏡視下固定術の比較

A comparative study of open and arthroscopic arthrodesis for thumb carpometacarpal joint osteoarthritis

小笹 泰宏

札幌円山整形外科病院

母指CM関節症に対する観血的固定術(O群;13指)と鏡視下固定術(A群;8指)の術後成績を比較検討した。手術時平均年齢は60.8歳、術後平均経過観察期間はO群44.5ヵ月、A群8.0ヵ月であった。偽関節はO群のみで認められた(23%)。両群間の比較では骨癒合期間はO群19.9週、A群11.5週とA群で有意に短く、最終経過観察時の疼痛VAS、DASHスコアには有意差は見られなかった。鏡視下CM関節固定術は早期に骨癒合が得られ有用な方法と考えられた。

PD4-6 母指CM関節症に対するロッキングプレートを用いた関節固定術の経時的臨床成績 Arthrodesis Using Locking Plate for the Carpometacarpal Osteoarthritis of the Thumb

森田 哲正¹, 小嶽 和也¹, 牧野 祥典¹, 大原 昂洋¹, 藤澤 幸三¹, 建部 将広², 辻井 雅也³

¹鈴鹿回生病院 整形外科, ²名古屋大学 手外科, ³三重大学 医学部 整形外科

母指CM関節症に対してロッキングプレートによる関節固定を施行した22例の術後の経過を経時的に観察した。ロッキングプレートによる初期固定は良好で術後約3ヵ月で骨癒合が得られることが分かったが、疼痛やADLの改善にはさらに長期間を要していた。また可動域やpulp pinchも術後一旦悪化してから改善する傾向を認めた。